

F. Schubert の 歌 曲 集

— “Die schöne Müllerin” の演奏上の解釈と唱法について —

Of Singing Method and Interpretation of F. Schubert's

“Die schöne Müllerin”

中 山 開 二

序 論

先ず表題に掲げた本論について論ずる前に、この「美わしき水車屋の娘」が F. Schubert (1797~1828) によって作曲されるまでのドイツの民族的歌曲(Lied)としての歴史的発達背景、及びこの歌曲集のもつ連歌曲集としての意味と、又その音楽的内容について考えてみよう。

18世紀中期、フランスやイタリアには、まだ革命騒動から生まれた単純な軍歌や感傷的な恋愛歌曲しかなかったが、ドイツに於ては、Heinrich Albert (1604~51) や Adam Krieger (1634~66) によって、単純で素朴ではあるが既に抒情的な芸術歌曲が芽生え、それはやがて19世紀の F. Schubert・R. Schumann・J. Brahms・H. Wolf 等のロマン派の作曲家の秀れた芸術歌曲を生む事になった。そして、これらの作曲家は、歌曲をLiedとして、音楽芸術の1ジャンルにまで高め、開花させたのである。

ここで歌曲の中における歌曲集について更に考えてみると、同じ歌曲集でも例えば L. Van Beethoven の op 48 Sechs Lieder von Gellert (ゲレルトによる六つの歌曲集) や、R. Schumann の op 39 Liederkreis や、op 25 Myrten 等の歌曲集のように、詩の構成上からも歌曲集とは言いながら、それぞれの歌曲はお互いに前後の関係はなく、独立した歌曲の集まりとして作曲されている作品と、これからとりあげようとする“Die schöne Müllerin” や “Winterreise” そして R. Schumann の op 42 “Frauenliebe und Leben” 等のように、詩の構成上ははっきりしたプロットを持った歌曲集とに分類する事が出来る。

更に F. Schubert 一人についてその三大歌曲集と呼ばれる連歌曲集における分類上の意味を考えると、“Die schöne Müllerin” “Winterreise” は、全体の構成に詩自身が、一貫した文学的或いは音楽的な関連性を持ち、物語風なプロットによる展開がなされている。しかし、遺作 “Schwanengesang” では歌曲集とは云いな

がら、曲の構成上からも、それぞれの曲の関連がある訳ではなく、しかも F. Schubert の死後 Hasliger によって遺作として編集されたもので、詩も Rellstab (1799~1860) Heine (1797~1856) Seidl (1804~1875) と、三人の詩が用いられている。

又同じ物語風の連歌曲集 “Winterreise” (冬の旅) は “Die schöne Müllerin” と同じ作詩者 Wilhelm Müller の作詩になるもので、物語的な展開に於ては、後者と同じ意味を持つが、登場人物も主人公一人で、人生に希望を無くした孤独な放浪者の心理的独白という形で表現されている。したがって、それらの詩のもつ背景には冬の野や、凍った川、北風に震える木の葉など、全体的に暗い灰色に覆われ、それらの外界の事物の絵画的描写を背景に描きながら、人間の深い内面的表現がなされている。そして “Die schöne Müllerin” では詩の順序が原作と全く同じであるのに対し “Winterreise” では、かなりその順序が相前後され、詩句の改変も著しく行なわれ、到る所で執拗に繰返され、形式的にも素朴な有節形式 (Strophische Form) を避け、変化有節形式 (Variatione Strophische Form) を用いしかも Leise (弱声) と Stark (強声) による対称的表現をしばしば用い、劇的表現を一層効果的なものになっている。いずれにしても、この “Winterreise” の底に流れている Motive は、“Frühlingstraum” (春の夢) 等の二、三曲を除いては、全く灰色の絶望で彩られ、その演奏に当っては、深い内面的な表現を要求され、その為には Baritone による歌唱が最も適当であろう。

さて、ここで本論で取上げる “Die schöne müllerin” についての考察を行なおう。この歌曲集は、1823年、F. Schubert が26才の時に作曲された作品で、詩は Wilhelm Müller の20からなる連詩によるものである。既に連歌曲集についてその分類を考えたが、この歌曲集は、はっきりしたプロットがあり、多感でロマンな若者の恋が物語的に展開される。そして、その背景には、絶えず模音的描写音として小川の流れが Arpeggio

(分散和音) 或いは *Triole* (三連音) として表現され、ある時には、その伴奏音型は楽しい小川のせせらぎであり、ある時にはのどかな水車の音となる。そしてそこには明るい色彩が配され、これらの牧歌的な抒情は、すぐれた絵画的描写と共に主人公の心象を巧みに表現し余すところなくドイツ、リートの本質を発揮している。

次に参考的に、F. Schubert の歌曲作曲上の表現形式について考えてみると、大体次の四の形式を挙げる事が出来る。

- ① “Die schöne Müllerin” に多く見られる素朴で、民謡風な有節形式 (*Strophische Form*)
- ② *Erkönig* (魔王) に代表される劇的な内容をもつ、バラード風な通作形式 (*Durchkomponierte Form*)
- ③ やはり、この歌曲集に良く見られる形式で、例えば六曲目 “Der Neugierige” の様な変化有節形式 (*Variatione Strophische Form*)
- ④ “Schwanengesang” の中の “Der Doppelgänger” (影法師) に見られる *Recitando* (叙唱) による表現形式を持つもの。

これらの四つの形であるが、この歌曲集では①と③の形式を多く用いているのが特徴である。又、中でも有節形式は歌曲の形式としては最も素朴なものであり、この歌曲集の主人公の若やいだ素朴な心象表現に当っては、全く必然的な事であろう。そして、又、それらは民謡的な旋律であり、その演奏に当って辻荘一氏は「シューベルト歌曲等解説」の中で「民謡的な有節形式の歌曲をうたう場合には、歌詞各節の内容にしたがって、旋律に表情を与えると同時に、全体としてのまとまりをつける事に注意がはらわれねばならぬ。」と云っている。勿論、一節から五節まで同一の旋律で歌われる有節形式の歌曲が、各節とも変化なく歌われる事は考えられず、当然各節の詞の内容によって、*forte* 或いは *piano*、又、*leggiero* か *legato* と、対称的な表現によって変化を与えるべきであろう。しかし、ここで注意しなければならぬ事は辻氏も云っている通り、全体的なまとまりについてであり、一節毎に余り細かく表情をつけ過ぎて連歌曲の持つ相互の楽曲の関連性を壊してはならない。

以上、この歌曲集を演奏するに当たっての予備的考察を行なって来たが、特にこの歌曲集の詩の物語的展開は、主人公の心象変化の上から大きな意味を持ち、その表現上の多様性についても深く掘り下げる必要がある。

「美しき水車小屋の娘」

訳 中山 開二

1 さすらい

さすらいは、粉屋の喜びである。

そのさすらいを一度も思いつかないような者は、

駄目な粉屋であるに違いない。さすらいよ！

我々はその事 (さすらい) を水から学んだ。

水は、日夜休む事なく常にさすらいの事を考えている。水よ！

我々はその事を、水車の車からも又読みとる。

水車は全く静止しようとはせず、私の日 (私の仕事の日) を倦む事なく回転させる。水車よ！

石自身、如何に重かろうとも

石臼は愉快な列をもって踊り

尚一層速くなろうと欲している。石臼よ！

おお、さすらいよ！さすらい！我が喜びよ！

親方と奥さんは、私を自由に遠くの方へ

行かせる。さすらいよ！

序論に於て、この連歌曲集の物語的なプロットの特性について述べたが、この第一曲目の “Das Wandern” で、早速主人公の粉屋の若者が登場する。そして (旅は粉屋の喜びである) と歌い始めるが、この喜びは、唯単に、通称的な旅に出る事の喜びのみならず、当時の製粉屋という職業的独立を図ろうとする若者が、必ず経なければならぬ “旅奉公” という、経験上の意味に於て、一エポックを画する事の喜びを表したものだと思ふべきであろう。

先ず四小節の前奏があるが、これは明らかに水車の回る *Rhythmical* な模倣音型であり、その意味に於て、この伴奏表現は、あくまでも一定した正確な *Rhythm* に支えられるべきである。

又、この曲の演奏に当って、これを形式上から考えれば、一節から五節まで同一の旋律による有節形式であるが、有名なピアニスト *Gerald Moore* 氏は「伴奏者は、各節の詩句を同じように弾く事はない。彼は悲哀と歓喜を区別し、夫々のもつ詩の意味を考えねばならぬ。例えば、歌手が “Das Wandern” の二節目で、流れる小川について歌っている時には、伴奏者は右手の16分音符の部分、さざ波をたてて走らねばならないが、同じ楽譜であっても、第三節は水車の輪のことを歌っているのだから、同じ16分音符を水車が水をはねとばしつつ回ってゆくように重々しく弾かねばならないし、更に次の節では、重い水車の石臼のように左手で、どっしり重さを現わさねばならない」と書いているが、確かに必要な事であろう。

最初の *Motive* (EX I) は、*Piano* のはずんだ

いつも小川に従ってゆく。

すると小川は益々さわやかな音をたて
益々明るくなってゆく

一体、これが私の道なのであろうか？

おお 小川よ 何処へ行くのか言ってくれ

お前はお前のせせらぎをもって

私の心を全く魅了してしまう。

私は一体このせせらぎについてどう云えば良いのか？

それは何のせせらぎでもあり得ないだろう。

そして、それは水の精達が、恐らく

水底でその輪舞を歌っているのだろう。

友よ！ 歌うにまかせよ ざわめくにまかせよ

そして愉快にそのあとをさまようが良い

どの澄んだ小川にも水車が回っているではないか

右手で奏される六連音符の伴奏音型は、静かな小川のささやきを表わし、この伴奏音型上に弱起の生き生きした旋律（EXI）が歌われる。

(EX I)

この伴奏について、やはり Moore 氏は、legato 奏法の実例としてこの曲をあげ、「伴奏の arpeggio を静かなつぶやきとする為、鍵盤から手を離さない方がよい。legato にタッチのムラがあってはならない」と要求している。先ず、この Motive の歌唱で注意すべき事は、この動機をまとめる上での重心の処理についてである。即ち、Ich höre ein Bächlein rauschen について、rauschen の頭(D音)に重み(重心)を加える事によって、Phrase の処理をうまく行なう事が出来る。次の Felsen の動きにも注意。hinab~wunderhell の Phrase のまとめ方も上に同じ。ただ、この Phrase

で、so frisch und wunderhell
の s 及び fr, w の各語の子音をは
っきり発音する事。Hinunter und
immer weiter, から新しい Mot-
ive が現われるが、この部分では、
legato で、充分各音を tenuto し
espressivo な歌唱を。その為、弱
起で始まった旋律を cresc し、
weiter の頭に重心を置き、dim を
うまく。次のund immer frisch-
er~der Bach, では、旋律の音型
が跳躍しているので声のコントロ-
ールに注意する。即ち音高の変化によ

leggieri で表現されるべきで、特に 6 小節目、Müller's Lust の Rhythm の Articulate な動きは、重くなく、生き生きとした明白な動きで表現すべきである。

(EX I)

Lust (1Ust) の発音について、u が長い場合には、暗い (u:) となるが、この場合は短い u であるので明るい (U) の発音で、しかも、この意味 (喜び) らしく、歯切れ良く発音されなければならない。又、7 小節目の das Wandern を強調し、さすらいこそ喜びなのだ、と歌い Wandern の W の要素を強調する事によって旅への大きな喜びと期待とを表現する事が出来よう。次の Das muz ein schlechter の、それぞれの 8 分音符は、Marcato に。そして、Müller sein の articulation の動きをうまく。続く dem niemals~Wandern ein, の Phrase も同じ歌唱で。最後に das Wander が四回くり返されるが、二つの Phrase に考え、前の Motive を mf で、後は対称的に P で歌い、echo 的な処理を行なう。二節より五節についての歌唱は一節のそれに準ずるが、特に四節の Die Steine (石臼) の表現については、重い感じを表す為に多少 tempo を落とし、重い marcato な歌唱をし、それとは対称的に Sie tanzen mit den muntern Reihn は、軽く踊りの様子表現する。

2 何 処 へ

私は小川が恐らく岩間の泉から
音をたてて流れ出て
かくもさわやかに不思議な明るさで
谷の方へと音をたてて流れ下るのを聞いた。

私は自分の心がどうなっているかも知らず
誰が私に忠告を与えるかも知らないで
私の旅杖をたずさえて又
下って行かなければならなかった。

EX I

Das Wan- dern ist des Mühl- lers Lust, das Wan- dern!

EX I

Ich hört' ein Bäch- lein ran- schen wohl

pp

って同じ響き (Ton farbe) を失う事のないように。しかも軽く lyric な表現が出来るように。Ist das denn meine Strasse? は pp で「これが私の道なのか」と Staccato で問い、Strasse の頭の A 音は充分 tenuto して重心をつけ、O Bächlein, sprich, wohin (おお小川よ云ってくれ) と、cresc しながら、その答えをうながし、wohin? sprich, wohin? の頂点まで、何処なのかと詰め寄る。この部分では、以上の意味のものに多少リアルな表現をとるべきであろう。du hast mit deinem Raschen~den Sinn の Phrase も跳躍音及び、しばしば現われる articulation の処理をうまく。Was sag ich denn vom Rauschen? の Phrase では、疑問調 Was の w の摩擦音による子音を上手に発音し、しかも p で「どう云えば良いのか」と問い、それに続く das kann kein Rauschen sein, は mf で歌い、特に打消の言葉 kein を強調する。Es singen~ihren Reihn では、最初の音型にかえり、変化有節形式的な表現をとるが、ここでは水の精達のはずんで歌っている情景を表現する為に、p の、はずんだ leggiero による歌唱を行ない、Lass singen, Gesell~frölich nachでは(友よ歌おう)と、はずんで訴え、rauschenの頭に tenuto による重心をおく。最後の frölich nach の smorzando の処理を上手に。

3 止 ま れ

赤楊の間から、水車が光っているの見える
せせらぎの音と、歌声の間をぬって、水車の音が聞こえる。

ああ ようこそ 楽しい水車の歌よ
そして、何となつかしいあの家よ。何と輝やく窓よ。

又、太陽は天から何と明るく輝やくことか、
ああ、愛する小川よ お前もそんな風に思っていたのか

働き場所を求めてさすらいの旅に出た若者も、愈々念願が叶い水車屋に到達する。Rhythm は $\frac{9}{8}$ 拍子に変わるが、ここでも水車の音を伴奏音型に聞く事が出来る。特にこの曲では $\frac{9}{8}$ 拍子のもつ牧歌的な抒情を充分歌い上

げなければならないが、元来 $\frac{9}{8}$ 拍子は 2 拍子系の Rhythm として表現される為、EX I の Motive の Rhythm が、間違えて EX II のように歌われがちである。特に注意すべきであるが、6 拍子の曲を espressivo に表現する為には、3 拍目と 6 拍目の音が短くならないように tenuto されるべきである。

(EX I) (EX II)

弱起で始まる Motive は、充分 legato 唱法に注意し、音のふくらみを考えて、espressivo な表現をすべきである。ich blinken blinken を輝やかしく accent をつけ、durch Rauschen の六度の跳躍は、slur をつけ、音のふくらみが欲しい。又、blinken の H 音に重心を持たせ、その Phrase をまとめるが、それに韻を合わせて Singen E 音にも充分ふくらみのある accent を持たせたい。bricht Rädergebraus が二度くり返されるが、二回目は対称的に mp で表現する。Ei willkommen では、Motive が強起に変わり、Ei (感謝詞) に生き生きした accent をつけ、歓迎の意を表現したい。次の süzer Mühlengesang では、充分 espressivo な、ふくらみをつける。再び弱起の Motive に返るが、Und das Haus, wie so traulich、(何となつかしいあの家よ) の部分では、特に形容詞的表現 so traulich を強調し、その意味に於て、次の Phrase の wie blank (何と輝やく事か) も同じ表現をとりたい。更に Und die Sonne, ~sie scheint は両方の Phrase と太陽の輝やくきについて、Marcato 唱法を行ない、Ei, Bächlein, ~gemeint? では、6 拍子の Rhythm をはっきり刻み、liebes Bächlein の 1 の子音を前に出す事によって、小川に対する積極的な愛情を強調すべきであろう。そして、War es also gemeint? と三回くり返されるが、各 Phrase を diminuendo する。又、この phrase は、legato に歌われるべきであり、独逸語は原則として、発音上 liaison (仏. liezon) されないが、legato 唱法の要求の為、War es also と、liaison 的な母音唱法を行なえば上手に表現出来る。

4 小川への感謝

私のざわめく友よ。お前の歌 お前の響きは
そんな風に思っていたのか?

水車屋の娘の所へ行け、と。そういう風に響いた。

確かに私は解った、水車屋の娘の所へ行けという事が。

彼女は、お前をそうさせたのか。又

EX I

Eine Müh-le seh ich blinken aus den Er-len her-aus

EX II

Eine Müh-le seh ich blinken aus den Er-len her-aus

は私をだましたのか。


私はやはり知りたい。彼女はお前をそうさせたのかを。

さて、それが亦どうであろうと、私は身を委ねよう。

私は何を探しているかを発見するのだ。

たとえ、常に、それがどうであろうとも。

私は仕事について尋ねた。今や、私は
手も心も全く満足してしまっているのだ。

水車屋にたどり着いた若者は、ここで水車屋の娘に出会う。そしてこの出会いについて自問自答するが、小川の導びきによって、ここに来て良かった。と、感謝を表わす。 $\frac{3}{4}$ 拍子であるが、tempo も *Etwas langsam* と、かなり遅くそれぞれの音を充分 tenuto し、legato 唱法により、espressivo な表現が要求される。伴奏部分の最初の Motive は、やはり弱起で始まり、特に左手の Rhythm の刻みは、水車の回る一定の Rhythm を表わし、右手の分散和音的旋律は、水川のせせらぎを表現しているものと、解釈して良からう。歌の最初の Motive も、表情豊かに。特に Singen, Klingen の S, K の子音をはっきり、そして充分に押さえ気味な重心を加え、続く *war es also gemeint* は legato で *cresc* をともなわせる。又、*so lantet der Sinn* の Sinn の S の子音の深みのある [Z] の発音にし、Geld では自信をもって“確かに”と云い切る為に、Geld の E の頭に軽い accent をつけ *fp* の効果を狙っても、面白からう。続いて極めて独逸的な  の $\frac{3}{4}$ の Rhythm (EXI) が表わされるが、

(EXI)

その14・15小節の旋律は、この Rhythm を意識的に *leggiero* で軽く歌い、次の16・17小節の上行形の旋律を対称的に legato を伴った *espressivo* な表現にしたものである。

次の Motive (EXII)では、小川のせせらぎが、“水車屋の娘の所に行け”と聞こえながら、一方では、娘の計画にだまされているのではなからうか、と一抹の不安がよぎる。この Phrase は、Gdur から gmo11 に転調され、その不安感を *innig* (内面的)に表現すべきで、特に内省的効果をあげる為、*sotto voce* で歌い、*oder hast mich berückt?* を *cresc* し、*ob sie dich geschick-*

ckt の sie の F 音を tenuto し、二回目の同じ Phrase は、echo の様に P で歌う。

(EXII)

続く *Nun wie's auch mag sein*, では、若者は、自分の指向性を知り、自信を持って、*mf* で表現し、*Nach Arbeit ich frug*, からは、最初の motive が再現されるが、仕事に対する満足感を、やはり、*mf* で歌い上げ、特に *vollauf genug* には *accent* をつけ、若者の心情を吐露したい。

5 タペの憩い

もし、私が千の手を動かす事が出来たらなあ。

もし、私が、水車をぶんぶん回す事が出来たらなあ。

私はすべての森を通じて、風を吹かす事が出来たらなあ。

私はすべての石臼を回す事が出来たらなあ。

美しい水車屋の娘が真実の気持を認めてくれたらなあ。

ああ 私の腕は何とかよわい事か

私が何を持上げ、運び、切り、打っても

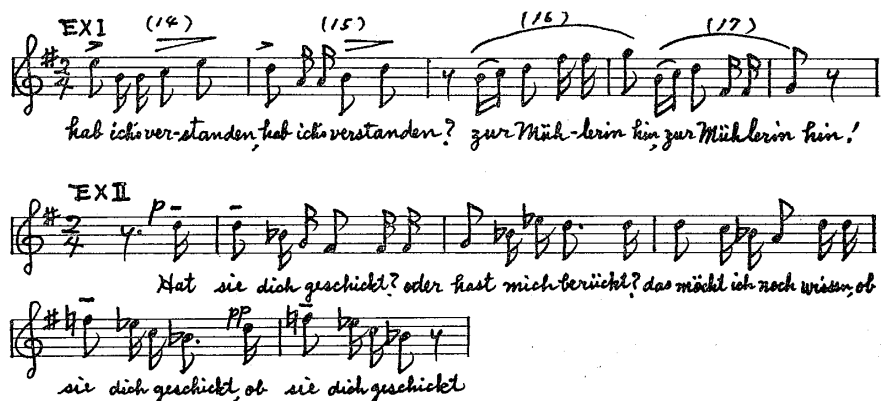
あらゆる粉屋の徒弟の程しか出来ない。

私は静かな、涼しい終業後に大きな輪の中に坐る。

そして 親方は皆に向って云った。

“お前達の仕事は私に気に入った”と そして
愛する乙女は云った。“皆さんおやすみなさい”と。

愈々水車屋の親方のもとで粉屋としての修行をする事になる。曲の形式は、*Recitando* を含んだ劇的な要素を持ったバラード風な三部形式と見る事が出来よう。曲は *Ziemlich geschwind* と、かなり速い tempo の $\frac{3}{4}$ 拍子であるが、二拍子系の正しい Rhythm に乗ること。最初の *Hätt ich tausend~rühren/より könnt ich~alle Steine/*までの弱起で始まる部分 (EXI)



EXI (14) (15) (16) (17)
hab ich verstanden, hab ich verstanden? zur Mühle hin zur Mühle hin!

EXII
Hast sie dich geschickt? oder hast mich berückt? das möcht ich noch wissen, ob sie dich geschickt, ob sie dich geschickt

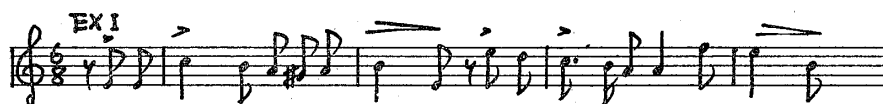
では、Könntの前に Wenn という願望の接続詞が省略されていると見るべきで、その事に於ては弱起という事にとられる事なく、むしろ弱起の部分の Könnt ich も強調すべきであろう。

(EX I)

いずれにしろ、この部分は、marcato 唱法により力強く、水車を回す音、石臼を動かす力を表現すべきである。次の das die schöne Müllerin の Adur への転調の Phrase (EX II) は、それまでの Phrase とは完全に対称的に、その意味のように espressivo な表現をとり、その旋律のねばりのある動きをくゝをともなうて歌うべきである。

(EX II)

続く a moll への復調の部分 Ach, wie ist mein Arm so schwach, は、p で自分のかよわい腕を嘆き、次の諸動作 trage (運ぶ) schneide (切る) schlage (打つ) は、Rhythmic に、しかもそれらの作業について、力強く marcato で表現したい。次に Recitando 風な情景説明が Und da sitz~Runde, in der stillen ~Feierstunde と続くが、stillen の s, kühlen の k のそれぞれの子音を上手に発音する事により情景描写が、うまく行なう事が出来よう。次の und der Meister~allen は、やはり説明的に p で、冷ややかに歌い、親方の発言 "euer Werk hat mir gefallen" は親方らしく威厳をもって、重々しい厚みのある chest voice を加え、それとは対称的に娘の "Allen eine gute Nacht" は、pp で完全に head voice で歌われなければならない。又、二度目の繰返しは多少音量を増し、皆の者に分るような客観的表現をとる。そして ABA と再び最初の Motive が現われ、最後の daß die schöne Müllerin~treuen Sinn, の二つの Recitando による Phrase は、rit をともなわず、あっさりと終りたい。



6 聞きたがる者

私は、決して花や星に尋ねない。
それらは皆私に云う事が出来ない。(云う筈がない)
私が何をそんなに知りたいかを。

私は亦、庭師でもないし、星は余りにも高い所にある。

私は小川に尋ねたい。私の心が嘘をついているかを。

おお、いとしい小川よ、
お前は、何故、今日はそんなに黙っているのか！
私は、唯一つの事だけ知りたい。全く一つの言葉を。

一つの言葉は「そうだ」という事であり

他の言葉は「否」という事である。

その両方の言葉は私を、全世界にとじこめている。

(その両方の言葉は、私にとって全世界をかけたものだ。)

おお、私のいとしい小川よ。

お前は、何と不思議なのだ。小川(es)がそれ以上云われないなら、彼女が私を愛してくれているかどうかを、私に云ってくれ。

小川の導びきによって水車小屋にたどり着き、そこで働らくようになった若者は、水車小屋の娘を心から愛するようになる。この曲では、小川に彼女の愛を聞き正そうと、しつこく尋ね、その答が「Ja」か「Nein」かを迫る。

形式は変化有節形式で、最初の Motive (EX I) の付点8分音符の歌い方に注意する。

(EX I)

即ち  で、示され

るように、Rhythm を小さく分割すれば、付点8分音符の中には16分音符が3つあり、その付点音符と次の16分音符の長さの比が3:1である事を意識して、その Rhythm を感ずれば正確に表現出来るだろう。従って、その Rhythm が鋭くなりすぎていけないし、付点があまくなってもいけない。そして、その Phrase の打消の keine は、きれいな旋律の邪魔をしない程度にはっきり強調的発音をし、Blume Stern

の二つの Phrase の処理をうまく dim する。特に St ern の処理音 Dis 音の母音唱法に注意。was ich erf ühr so gern. の so gern を強調して積極的に。mein Bächlein からの $\frac{3}{4}$ の最後の Phrase (EX II) では, articulate (明白) な動きに注意。

(EX II)

そして、特に音の跳躍の為に、声の均質化を損なわないようにすべきである。

次の O Bächlein からの $\frac{3}{4}$ の旋律は、充分各音を tenuto し, espressivo な表現がなされなければならない。そして常に高い位置に響きを求め, lyric な音色を求めたい。“Ja” か “Nein” かの Recitando の Phrase (EX III) では “Ja” の Phrase は、自信をもった mf の表現で、又、次の Phrase では、das andre heisset: と cresc し、不安におびえて p で “Nein” を歌えば、効果的な歌唱となるであろう。

(EX III)

最後の sag, Bächlein, liebt sie mich? の Phrase では、特に sag の s の子音の要素を多くして「云ってくれ」と小川に訴え、うながす様子をうまく表現し、liebt は、特に legato の動きに注意しなければならない。

7 焦 燥

私は、それを（この言葉を）すべての樹皮に彫りつきたい。

私はそれを、あらゆる小石に彫りつきたい。

私はその言葉を、新鮮な花壇に、

速く表わすようなタガラスの種を蒔こう。

又、私はその言葉を、あらゆる 真白な紙片にも書こ

う。

「お前は私の心でありその事は永久に変わらないだろう。

私は自分で、若い椋鳥を育てたい。

その鳥があ言葉のきれいに、はっきりと話すまで、又、その鳥が、あ言葉を私の口真似をして、私の心に充ちていた熱いやるせなさをもって話す迄 そうしたら、その鳥は彼女の窓ガラスを通して はっきりと歌うだろう。

私は朝風にその言葉を吹込もう（伝えたい）

私はその言葉を、そよ森にざわめかせたい。

おお その言葉があらゆる星のような花からも輝き出花の香が、その言葉を彼女の方へ運ぶように。

それらの大波は唯、水車を回すより他に出来ないのか。

私は、それが私の目に在る（宿っている）に違いないと思う。私の頬にそれが燃えているのを見るに違いないと思う。私の黙せる口元に拾われる（読みとられる）に違いない。又、すべての呼吸に、それを彼女にはっきりと知らせるであろうと思う。しかも彼女は、こうしたすべての不安な切なさについては、何も気付かないのだ。

日に日に、若者の水車屋の娘に対する愛はつのるばかりで、何とか愛を打明けたいと、焦燥にかりたてられる。4 節まで同じ旋律の有節形式で、三連音符の伴奏形

は焦らだちを巧みに表現している。割に速い tempo で歌われるので各語の発音を明瞭にする事に、注意しなければならない。そして、最初の Motive (EX I) に於て、三連音符の上に乘せられた付点音符は鋭く、軽く歌われなければならない。従って、Ich schnitt' es gern in alle Rimden ein, ich grüb es gern in jeden Kieselstein, と多少の liaison 風な歌唱をさけられないだろう。

(EX I)

又、最初の Motive の Ich の h 音は、三連音符上の 8 分音符であるので、鋭く、或いは短くならぬように Rhythm に乗ること。そし

EX II

EX III

EX I

て、前半 (ich's schreiben) までは *leggiero* で軽く、それに対して *Dein ist mein Herz* の Motive (EX II) は, *espressivo* な訴えをする為に、それぞれの音を充分 *tenuto* し, *dein* の *d*, *Herz* の *z* の子音に注意し, *ewig bleiben* の音の跳躍と装飾音符を軽く表現しなければならない。

(EX II)

尚、この *Dein ist mein Herz* の部分の伴奏表現に於ては、左手の *Sequenz* (同型反復) による *Bass* の旋律を意識的に *marcato* で, *cresc* をともなった表現をし、歌の *expression* を助けたい。尚、有節形式であるが、第一節及び二節は *mp* で歌い、第三節は *p* で朝風や花について歌い、第四節は *mf* で積極的に表現し、変化をもたせるのも面白からう。

8 朝の挨拶

おはよう 美しい水車屋の娘よ。
お前はそ小さな頭を何処へ向けているのか?
あたかも、何かがお前に起ったかのように。
私の挨拶がお前を、そんなにひどく不愉快にさせるのか?
私の目付きがお前を、そんなに妨害する (困らせる) のか?
それならば、私は又行ってしまわなければならない。

おお 遠く離れて立っていて、君の懐かしい窓の方を
遠くから、全く遠くから眺める事だけは許しておく
れ。
お前、ブロンドの愛らしい頭を出してくれ。
円い門より出て来ておくれ。その青い明星よ。

お前達、寝呆けた愛らしい瞳よ。
お前達、涙の露で曇った可憐な花よ。
どうして太陽を恐れるのか。
夜はそんなによく思えたのか。

お前達は目を閉じ、そしてうずくまり、そしてひそかな
歓喜の為に泣いているのか。

さあ、夢のヴェールをかなぐりすてて、神の明るい朝
に
さわやかに、こだわりなく起き上れ。
雲雀は空に輪を描き、そして心の奥底から
愛は、その悩みと憂いとを叫んでいる。

「おはよう。美しい水車屋の娘よ」と、挨拶はするが、積極的に、彼女に愛を告白する勇気もなく、唯遠くから彼女を眺めて愛の憂いと悩みに苦しむ若者の姿について歌う。この曲も単純な有節形式である。特に伴奏形は、*Recitando* 風な形 (A) と、それに中間部の B 及び三連音符による *espressivo* な伴奏旋律を持つ A' に分ける事が出来よう。*tempo* は *Mäzig* で遅すぎないように。その意味に於て、旋律が *sentimental* にならないように注意しなければならない。そして、A の部分 *Guten morgen, schöne Müllerin.* は「おはよう」と、割に元気良く *mf* で、しかもあっさりと呼びかけ、次の *Phrase* で, *gleich das* の下行音階が滑らないように *articulate* な動きをし, *geschehen* の E 音に充分重心をかけ, *Phrase* のまとめをうまく行なう。続く B の部分 (EX I) では、譜例に示した通り *dich denn mein* の 8 分音符を *staccato* 気味に言葉をはっきりと説明的に表現し, *so schwer? so sehr?* の *legato* 唱法とを対称的に表現すれば効果的だろう。

(EX I)

尚 A' の部分は完全に *legato* で歌われなければならないが、特に三連音譜による輪唱風 (*canon*) な伴奏形と共に、旋律と伴奏とのかけあい充分注意しなければならない。

第 2 節に於て *ganz von ferne* の遠い感じの表現に

当って, *ferne* の *f* の摩擦音をうまく発音し, 又, *Köpfchen* (*Köpf-chen*) の発音では、長母音の *O um laut-König* (*Kö:niç*) の *ö* 等とは区別し, (*φ*) は暗く (*θ*) は明るく, しかも *Köpf* と *chen* の二音節に分けて歯切れよく発音されなければならない。

第 3 節に於て、最初の Motive の *Ihr schlummertrunknen Augelein* は、まどろみの愛らしい瞳について歌う為、*pp* のゆるんだ

EX II

Dein ist mein Herz. dein ist mein Herz und solles

EX I

Ver-driesst dich denn mein Gruss so schwer? ver-stört dich denn mein Blick so sehr?

感じで表現し、次の was scheuet (何故恐れるのか) では、scheuet の sch の要素を多く入れる事によって、恐れ、おののく感じの表現をずる事が出来るだろう。又、この B の部分に於て、breathing は、次の様に行なわれなければならない。daß ihr euch schließt und buckt und weint nach ihrer stillen Wonne,

第四節の Motive も「眼覚めよ」と、mf で歌い始める。そして、B の部分は第一節より三節までは P で歌うが、第四節では、雲雀のさえずりを高らかに mf で歌い上げ、続く und aus dem tiefen Herzen ruft die Liebe Leid und Sorgen を対称的に P で歌い、breathing は die Liebe で行なう。Sorgen の S の子音を深く。

9 水車屋の花

小川のほとりに多くの小さな花が立っていて
明るい青い瞳で見ている。小川は、水車屋の友である。

そして淡青色の恋人の眼は輝く。
それ故に、その花は私の花である。

彼女の小窓のすぐ下に、私はそれらの花を仮植しよう。
すべてのものが沈黙し、彼女の頭が仮眠の為に倒れる時に、彼女に呼びかけるのだ。
花達は私の思っている事が分っているので。

そして彼女がその愛らしい眼をとじて
甘い安らかさで眠る時
夢まぼろしに彼女に、こうささやきかける。
我を忘れるな、これが私の思っている事です。

そして彼女が翌朝、雨戸を開く時、
愛の眼差して見上げるのだ。お前らに宿る露こそ
それは私の涙であり、その涙を私はお前達に注ぎたい。

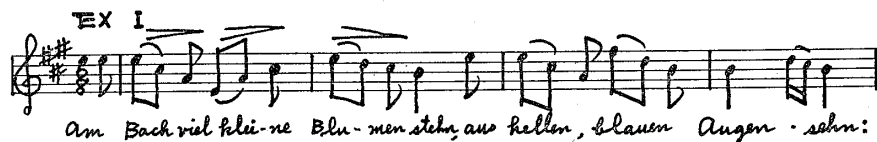
若者は何とかして、彼女に愛を告げようとする。ここでは、Ihr wißt ja, was ich meine (花達は私の心を知っている) と、花を通じて彼女に愛を告白する。曲は、上下行による分散和音形の旋律によって出来た単純な有節形式をもつ歌曲である。先づ Adur の Tonica の分散和音によって始まる Motive (EX I) は、上下行による旋律の跳躍運動をなし、その動きの為に響の位置が変わらぬように注意しなければならない。

(EX I)

又、この Motive でもそうであるが、先にも述べた通り、牧歌的な $\frac{6}{8}$ 拍子の歌唱に当って、3 拍目と 6 拍目の音が、次の強拍 (1 拍目と 4 拍目) を意識する余りに、短くならぬよう充分 tenuto されなければならない。そうする事によって legato 唱法が可能で、この曲の lirico で espressivo な表現をする事が出来る。一節の aus hellen, blauen は、多少弾みをつけて cresc し、Augen sehn で dim する。次の der Bach の Phrase も同じ表現をし、Edur への一時的な転調後に drum sind es meine Blumen と Adur に帰調するが、この部分では、発想の要求通り、くり返される旋律の初めの部分を pp で、二回目は、cresc を伴った mf で対称的な表現をすべきである。二節の最初の部分の pflanzen の pfl の三重子音を丁寧に発音し、da ruft ihr zu, wenn alles schweigt, ~ zum Schlummer neigt, の Phrase は、沈黙或いは仮眠の状態について歌う為に、P で歌い、特にその Phrase の処理 Schlummer neigt, の dim をうまく。尚一、二節の Motive に対して、三節は特に P で歌い、lispelt (ささやく) の 1 の発音をうまく、そして歌詞の関係上一、二節の Phrasing とは異り、dann lispelt als ein Traumgesicht ihr zu とすべきで、Traumgesicht で breathing をしてはならない。又、次の Vergiß mein nicht は、「我を忘るな」と、大声で叫ばず、P で内面的な表現をとりたい。発音上、Tau [taU] の様に an を伴った a は明るく (U) も mut (mu:t) 等の長母音の (u) とは区別して、明るく発音すべきである。又、Schlummer [ʃlUmər] 等の Sch [ʃ] の発音は、英語の ship [ʃip] の [ʃ] とは多少異なり、独語の [ʃ] は舌の位置を後方に置き、完全に歯をかみ合わせ、軟口蓋を利用して暗く発音される。

10 涙の雨

我々は、非常に睦まじく
共に、涼しい赤楊 (はんのき) の繁みの中に坐っていた。
我々は、かくも睦まじく
共に、せせらぐ小川を見下していた。
又、月も出、星も続いて出た。そしてそれ等は
共に、かくも親しげに銀色の鏡 (小川) を見入った。



私は、月も星の輝やきも見ないで唯、彼女の姿、
それも彼女の眼ばかり見ていた。
そして、私は彼女が喜びに充ちた小川から
こちらへうなづき見上げる様子を見た。
岸辺の青い草花達は、彼女の方へ傾き、そして眺めて
いる。

そして、空全体が小川の中に沈んでいる様に見えた。
そして、私をその小川の底の方へと
ひきずりこもうとしているようであった。
そして、雲や星達の上に楽しげな小川が流れていた。
そして、歌声と響きで「友よ」と、私に呼びかけた。

すると、私の眼は涙で溢れ、
鏡（水面）は、このようにぼうとなった。彼女は云
った。
「雨がやって来るわ。さようなら！私は家へ帰るわ」
と。

相変わらず星や月、花、小川に彼女を想い、何時まで
も彼女と一緒に坐っていたいのだが、彼女は「雨が降る
ので帰るわ」と、冷たく突っぱね、拒絶され、現実にも
どる。この曲も単純な有節形式だが、四節だけは、
motive が A dur から a moll に転調され、若者の嘆
きが表わされている。弱起の曲だが、繋留音を用いてあ
るので、特に六拍目に Syncopation による accent を
つけ、phrase の始まりの音をはっきり表わし、多少
tenuto 気味に保持し、歌わせれば効果的な表現を行な
う事が出来るだろう。歌の最初の Phrase [EX I] の
装飾音符長前打音は楽典的奏法の上からも間違いのない
Rhythm で、しかも legato に歌われなければならない。

(EX I)

そして、Wir saßen~Erlendach, も, wir schau-
ten~Bach の phrase も mf で、余り sentimental


にならぬ様に注意し、wir schauten の phrase での
breathing は hinab で切り、in den rieselnden Bach
と歌う。続く三小節の間奏は＜＞を持たせた espres-
sivo な表現で、充分歌わせなければならない。次の
Phrase: Der Mond~gekommen, の上行形の旋律は
月の上る様子を cresc を、ともなった mf で歌い、続
く die Sterlein~drein, を mp で対称的に表現した
い。第二節の歌い始め、Ich sah~Sternenschein, の
phrase は、第一節に対し heimlich (ひそやか) な P
で歌うべきで、keinem Monde の打消しの形容詞
keinem を、はっきり発音すること。Und sahe sie
nicken und blicken の nicken (うなづく) blicken
(眺める) を P で、しかも歯切れよく発音し、草花達の
可憐な感じを表現し、seligen Bach (喜びに充ちた小
川) の s の子音を深く発音する。続く Phrase の nic-
kten und blickten の発音についても同じ。第三節も
mf で歌い始め、特に Und über den Wolken und
Sternen と cresc するが、次の da rieselte munter
der Bach, の Phrase では、小川の楽しげなせせらぎ
を控え目に P で歌い、最後の Geselle, mir nach! で
は、元気良く、弾んで“友よ”と呼びかけたい。第四節
の Motive は、割に sentimental に歌い、Spiegel
so kraus を充分 cresc し、sie sprach は冷ややかに
説明的に P で歌い、es kommt ein Regen, ade!
ich geh nach Haus. (EX II) では、「雨が降って来
たので、もう私帰らなきゃ」と、彼女の態度を冷たく、
ぶっきらぼうに表現すれば、その情景が生き生きとく
んで来るだろう。

(EX II)

11 我がもの

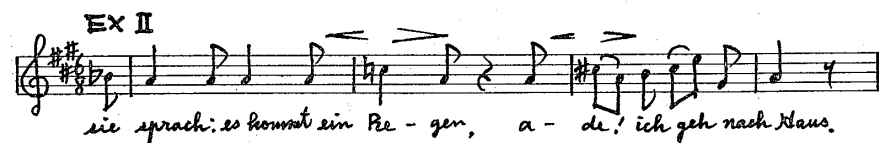
小川よ、お前のせせらぎを止めよ！
水車よ、お前達のざわめきを止めよ！
楽しそうな大小の森のすべての小鳥達よ
お前達の歌を終るがよい。
森の内外を問わず、今日こそ只一つの詩のみ響け、
「かわいい水車屋の娘は、私のものだ。私のものだ。
」と。

EX I (メロ)



Wir saßen so traulich bei sam-men im küh-len er-len-dach.

EX II



sie sprach: es kommt ein Re-gen, a-de, ich geh nach Haus.

春よ、これが、お前のすべての花な
のか、
太陽よ、お前は、もっと明るい輝き
を持たないのか。

ああ、私は、その様に全く只一人で
この広い世界で、理解されざる我が
ものという

喜びに充ちた言葉を、抱いていなければならないのだ。

若者は、何としても水車屋の娘を我が物 (Mein) にしたいと思う。そこで小川のせせらぎも、水車のざわめきも止め、*die geliebte Müllerin ist mein*。「かわいらしい水車屋の娘は私のものだ」と叫ぶ。Rhythm は $\frac{4}{4}$ 拍子であるが、tempo が *geschwind* (速く) であるので、 $\frac{3}{2}$ 拍子の感じが強い。三部形式による変化有節形式で作られ、右手の分散和音による伴奏は、小川のざわめきを表現しているものと解釈される。最初の Motive (EX I) は、言葉を歯切れ良く *leggiero* で歌い、特にその Motive の重心に当る *Rauschen* 及び *Brausen* では *accent* を要求し、次の *groß* (大) und *klein* (小) を意味の上から歌い分けるのも面白からう。

(EX I)

次の上行形分散和音による Motive (EX II) では、演奏上 *articulation* を要求される形が何度も出て来るが、それらの動きを明確に表現し、*Durch den Hain aus und ein* (森の内外を問わず) は *p* で歌い、*schalle heut ein Reimalle in* (今日こそ唯一つの詩のみ響け) を *mf* で、対称的に歌い分ける。

(EX II)

続く *die geliebte Müllerin* (EX III) の分散和音形の *articulation* 伴った Motive を軽く、*leggiero* に表現し、それとは対称的に *ist mein, ist mein* は、*mf* で *espressivo* に歌い上げるべきである。

(EX III)

その際 *Mein* の *m* の要素を強調する事により、自己の所有意譜をはっきり宣言する事が出来るであろう。

更に次の *Frühling*、と呼びかけに始まる motive は *Rhythmic* に、生き生きとした表現をとる。先ず *Frühling* (春よ!) と *mf* で呼びかけ、*sind das* の弱起の部分は、tempo が速いので *sind das* と *sind* の *d* を省略して発音し、*alle* に *accent* をつけ *Blümlein* と *legato* で *dim* し、更に *Sonne* (太陽よ) と呼びかける。Frühling Sonne と呼びかける際に、F と S の子音の要素を多く入れ、しかも強調すべきで、続く *hast du keinen hellern Schein* の打消しの *keinen* を、はっきり発音し、続く *so muß ich ganz*

allein の *ganz* に *accent* をつけ、*mit dem seligen* の喜びに充ちた *seligen* にする為に *s* を深く発音し、*unverstanden* の部分は、伴奏部の発想と同じくふくらみく>をつけ *turn* を伴った装飾音 *Schöpfung sein* は決然と *risoluto* な表現をとるべきである。尚、曲の最後の *mein, ist mein* の phrase も臆する事なく、又、誰憚る事なく *f* で、*marcato* に歌い上げたい。

12 休 止

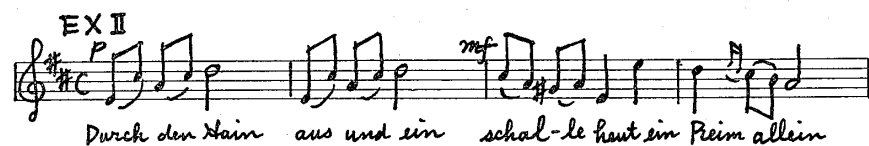
私は、緑のリボンを琴に巻きつけ壁にかけておいた。
私は、胸が一ぱいなので、もはや歌う事も出来ない。
どうして私の心を詩の中に収めてよいか知らない。

私は憧れのすべての熱い悩みを、
私の歌のたわむれの中に云いつくしたい。
そして私の歎きはむしろ甘く美しかったようだ、
私は、私の悩みが少なくないと信じていた。

しかし、地上の如何なる響きも表わし得ない程
私の幸福の荷は如何に大きい事であろうか。

さあ愛する琴よ! この釘の処に憩え。
そして微風がお前の糸に吹き
そして蜜蜂が、その翼でお前をかすめる時
私は、このように不安になり、私は戦慄に襲われる。

何故、私はあのリボンを、あんなに長く
掛けておいたのだろうか?
時には、溜息のような響きで琴の糸の周りを飛んでいる。
それは、私の愛の悩みの余韻なのであろうか、
或いは、新しい歌の前奏曲なのであろうか。



若者は、壁にかけられたLaute (琴)を通して、倅に
対する新しい歌の前奏曲を感じ、一方では愛の悩みの不
吉な予感におののく。Recitando を伴った innig (内
面的)な歌である。8小節にわたる Rhythmic な特徴
のある伴奏の後、最初の Motive が歌われるが、この
Motive は、lefatoで、しかも状景描写であるので、そ
こには感情の起伏はなくmpであっさりと説明的に歌い
たい。次の ich kann nicht mehr singen, mein
Herz ist zu voll, の Phrase (EX I) は、極めて独
逸的な  の特徴ある Rhythm で歌わ
れるが、「私は胸が一ぱいなので、もはや歌う事は出来
ない」と、充分歌の意味を伝えるべく < > の expres-
sion を考え、Herz ist zu voll の dim が、感動的に
なされなければならない。又、8分音符で歌われる ist
zu は、その旋律の流れを止めないように ist zu とし、
t を silent とする。又、voll の v の摩擦音による子
音の発音をうまく。

(EX I)

第二の Motive : Meiner Sehnsucht の Meiner の
mの要素を少し前に出し、所有代名詞を強調し、aller
hei esten schmerz の aller は多少 staccato 気味
に軽くし、heiBesten と schmerz の頭に充分 accent
を持った重心を置き、dim による Phrase の処理をう
まく行ないたい。

続く durft ich aushauchen in Liederscherz, の
phrase は、停滞する事なくあっさりと、articulate な
動きを示し、so süß und fein では、so と süß の
sの要素及び fein の fの要素を強調し、充分 espre-

ssivo で、その意のように感動的な表現がなされねばなら
ない。Ei, wre groß~Last, の Phrase は、伴奏に
示されている曲想通り、ffで、しかもその上行形の旋律
を cresc し、risoluto な盛り上げを行ない、続く daß
kein ~ in sich fast, の Phrase は、subito piano
(直ちに p) で疑問の歌詞を espressivo につぶやき
たい。前奏と同じ間奏の後の Nun, liebe Laute ~
die Saiten dir, までの Phrase は、最初の motive
の再現で、琴の糸にふれる微風を sotto voce で歌い、
続く und streift eine Biene mit ihren Flügeln
dich, の Phrase は、蜜蜂の飛び回る羽の音に聞き耳
をたてる程 p でささやき、da wird mir so bange, の
上行形の旋律を tenuto しながらかresc し、その不安
を盛り上げ、und es durchschauert mich, と、戦
慄の極みに達する。その際 schanert (慄える) の sch
の発音に注意し、その子音の要素を強調する事により慄
える感じを出したい。Bdur から As dur に転調され
Warum (何故)と歌われるが、この跳躍音型は、slur
をつけ、ließ に下行進行する。尚、Warum の wの摩
擦音に注意、Ist es der Nachklang meiner Liebe-
spein? Soll es das Vorspiel ~ Lieder sein?

(EX II) は、Recitando による和音伴奏の上に、二度
くり返されるが、最初は、生き生きと倅せに対する期待
を歌い、Liebes pein を poco rit し、nein (苦しみ)
の破裂音 (p) を上手に発音する。二度目は、不吉な予
感を暗示するかの様に、全体的に p で対称的な表現をす
れば、効果的な歌唱となるであろう。又、後奏 (EX III)
の表現で一小節目は、やはり Lebhaft に、生き生きと

mf で愛の期待を歌い二小節目は p
で不吉な予感を暗示し、三、四節目
で気を取り直すかの様に弾き分ける
のも面白かるう。

(EX II)

(EX III)

13 緑の琴のリボンで

それが色褪せてこの壁にかかっていることは

その美しい緑のリボンの為に惜しいことだ。

私は緑がこんなに好きだ。だからお前恋人よ。

すぐに、それをとりはずし、お前に贈ると、今日私に云った。

今や私は緑が好きである。

又、お前の最も好きなものが白色で



あろうとも

しかし緑はその値打を持っている筈だ。

そして私も亦それを好む。何故ならば、私達の愛は常に緑であり、遙かな希望が緑に燃え出るか。

だから私達は、それが好きだ。

さあ、好きな緑のリボンをお前の捲毛に結びつけよ
お前は、緑をそんなに好きではないか。そうすれば、
私は、何処に希望が住んでいるのか、何処に愛が君臨しているかを知るのだ、そうすれば、
私は緑が初めて好きになるのだ。

先にも述べた通り、この曲集は絵画的な色彩感に溢れているが、ここでは恋人の好きな緑色の琴のリボンを通して愛を語る。全く単純な有節形式で作曲されており、先ず最初の Motive は、mf で割に生き生きと屈托なく、あっさりと歌う。Das es verbleicht hier an der Wand, では Wand の○の前を poco rit し、ich hab das Grün so gern の(非常に好きだ)という so gern の g の子音の強調する。続く So sprachst du, Liebchen heut zu mir は、説明的にあっさりと歌い、次の gleich~send es dir の Phrase の16分音符は、staccato 気味に一語一語はっきり歌う。send es dir は、legato で、しかも<>を伴った表現をとりたい。続く、nun hab das Grüne gern は、若者の得意そうな表情を risoluto に歌い上げよう。特に、第二節の Ist auch dein ganzer Liebster weiß, は、第一節とは対称的に P で、soll Grün doch haben seinen Preis の Phrase は、緑色の値打ちを自信をもって mf で讃えよう。第三節では、特に Dann weiß ich, wo die Hoffnung wohnt, は、mf で歌い、続く dann weiß ich, wo die Liebe thront は P で、しかも staccato でなく legato で、espressivo に歌う。最後の Phrase, dann hab ich's Grün erst gern. では、rit しながら f で、緑色の好きになる事をたっぷりと歌い上げよう。

14 狩 人

狩人は、水車の小川のほとりで何を探しているのか?
強慢な狩人よ、お前の縄張りの中に留まるがよい。

お前の為に狩をすべき何の野獣もない。

ここには、私の為の馴れた小鹿が住んでいるのだ。

だから、もしお前が優しい小鹿を見ようとするならば、

お前の猟銃を森の中に置いて来るがよい。

又、お前の吠える犬を家に置いて来るがよい。

お前のうるさい放縦な角笛を鳴らすのを止めよ。

お前の顎から、もじゃもじゃした毛を切取るがよい。

さもなければ、庭の小鹿が本当におびえてしまう。

むしろ、お前はやっぱり森に留まっていた方がよい。

そして水車も粉屋もそっとしておいてくれ。

緑の小枝の中に小魚が何の役に立つであろうか。

リズが青い池の中で一体何を望むか、

だから、お前強慢な狩人よ。森の中に留まるがよい。

そして唯、私と私の三つの水車とだけにしておくれ

そして、もしお前が私の恋人の気に入られたいなら

我が友よ、彼女の心が何を心配しているか知るがよい。

夜な夜な森からやってきてキャベツ畑に侵入し

畑の中を歩き回り、荒し回るあのいのししを撃てくれ

勇ましき猟師殿よ

遂に、ライバルである狩人の出現で、若者は妬みの余り、静さを失う。曲は、やはり有節形式であるが、scherzando 風な民謡のスタイルを持っており、staccato の動きの中に、若者の怒りと強慢で、野性的な狩人の姿を、見る事が出来る。伴奏の始まり(EX I)は、canon 風で、殆んど8分音符がたて続けに Rhythm を刻んでいるが、この Rhythm が、若者の焦燥と怒りをうまく表現している。

(EX I)

この曲では tempo が Geschwind であるので、先ず一つ一つの言葉を明白に発言することに注意しなければならない。そして各々の Phrase を leggiero な表現をとり、第一節の bleib, trotziger Jager, (留まれ、強慢な狩人よ)では、さも憎らしげに歌い、hier gibt es kein Wild zu jagen für dich, は特に各々の8分音符を attack 気味に marcato で、しかも、ヒステリックに表現する。続く、hier wohut nur ein Rehlein, ein zahmes, für mich, の Phrase は、



「ここには私の為の慣れた子鹿がいるんだ」と、明るく dolce な表現をとり、次の Und willst du ~ Rehle in sehn から曲の終止まで、上行形の旋律が絶えずくり返されながら現われるが、各 Phrase と怒りに充ちて大きな crese をしつつ、sonst scheut の頂点に達する。第二節も第一節と大体同じ表現をとる。

15 妬みと誇り

我が愛する小川よ、そんなに速く、渦巻いて、荒々しく

何処へ行くのか？お前は怒りに満ちて

あの厚かましい兄弟の狩人を追っかけて急ぐのか、ひき返せ！そして先ず、彼女の軽はずみでなげやりなとるに足らぬ浮気に対して、水車屋の娘を叱りなさい。

お前は、(Der Bach) 彼女が昨晚、門の所に立って大通りの方を眺めているのを見なかったか？

狩人が獲物を得て、意気揚々と家に帰って来る時には、どんなしとやかな子ども、窓から頭を出さない者はない。

小川よ！向こうに行って、彼女にその事を云ってくれ、

しかし、私の悲しそうな顔の事は一度も云わないでくれ。

彼女に云ってくれ「彼が、私の所で葦から笛や作って子供達に美しい舞曲や、歌を吹いて聴かせている」と。

14番の Der Jager (狩人) に対するライバル意識と敵意で一ぱいである。若者は、狩人を憎むと共に、水車屋の娘の軽薄さをののしる。しかし、負け惜しみから、悲しそうな表情を悟られまいと強がりやを云う。この曲

は、この曲集の中に於ても珍らしく通作形式的な、バラード風な曲で、伴奏の絶えず動き続ける16分音符の Rhythm は、若者の焦らだちを表現している。先ず最初の motive (EX I) では、付点8分音符に accent をつけ、小川の猛り狂うようすを marcato で、しかも Rhythm を鋭く歌い、それに対して次の mein lieber Bach は、対称的に cresc を伴った espressivo な legato で歌う。

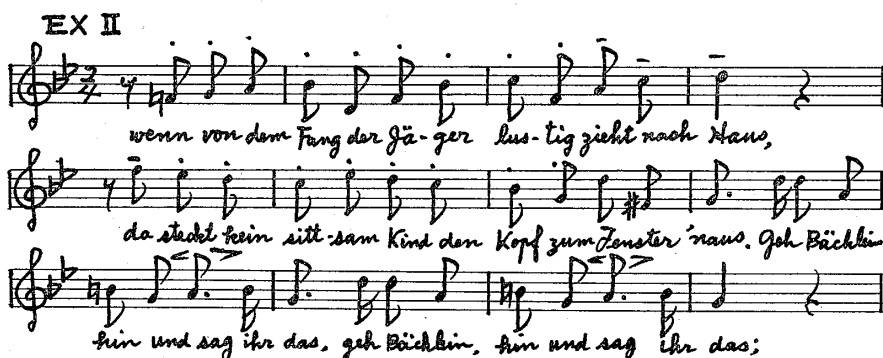
(EX I)

続く frechen Bruder Jages (厚かましい兄弟の狩人) の Phrase も marcato で、敵意を露骨に表現し、Kehr um (ひき返せ) と f で叫ぶ。次の und schilt erst deine müllerin の8分音符 schilt erst deine は、staccato で軽く歌う。この際 erst は (e:rst) か (ɛrst) と発音されるが、速い曲の場合は (ɛəst) と、発音すれば、その Rhythm に乗る事が容易である。für ihren leichten は、tenuto 気味な legato 唱法にし、続く losen, kleinen Flattersinn は、怒りに燃えて marcato に。Sahst du sie gestern Abend nicht am Tore stehn, の melodie は、B 音の連続による直線形の旋律で、明らかに Recitando の音型をとっており、従ってこの歌唱も Recitando 風にするべきで、それぞれの8分音符を tenuto しながら、言葉を明確に発音すること。続く、mit lengem Halse ~ sehn, の Phrase の:F音から・F音への Octave の跳躍音型を充分 cantando に表現し、高音より低音への響きのスクがとれないように注意しなければならない。Weun von dem ~ nach Haus, da ~ zum Fenster 'naus, の Phrase (EX II) では、Wenn ~ Jager の、それぞれの8分音符を Rhythmic な staccato で歌い、lustig (意気揚々と) を歯切れ良く accent をつけ、zieht nach Haus を legato に歌う。更に da は、

tenuto し再び steckt ~ den の8分音符を staccato に歌い、続く付点8分音符 Kopf, Fenster に accent をつける。

(EX II) (8小節)

繰り返しの後の Geh Bächlein では、geh は弱拍で、しかも短かい16分音符であるが「行け」と geh を強調し、又 sag も弱拍だが、この付点8分音符も、Rhythm の構成上強調し「云ってくれ」と訴え、うながしたい。又、ihr は、発音上 (i:r) であるが、この場合のように短かい場合には、話し言葉と同じ



く (iə) と発音すれば、Rhythm を損う事なく容易に歌う事が出来る。doch seg ihr nicht, (しかし彼女には、云わないでくれ) では、多少芝居気味に哀願するように P で、しかも nicht をはっきり。horst du, kein Wort の Phrase では、horst に accent つけ、打消しの kein をはっきり。von meinem traurigen Gesicht は、悲しい表情をもって、それぞれの 8 分音符を tenuto し、molto espressivo な表現をすべきである。sag ihr では、sag の s の要素を強調し「云ってくれ」と、うながす。Er schnitzt から Gdur に転調し、この明るい調性の上に Stolz (誇り) が歌われる。即ち、「お前の事なんか気にせず、僕は子供達と楽しく遊んでいるんだ」と。schnitzt の tzt の三重子音の処理をうまく。mir sich eine の 8 分音符は、staccato に歌い、Tanz も意味の上から舞曲らしく軽く歌う。何度も sag ihr と歌われるが、s の子音を深く発音し、特に曲の終りは充分 crese し、盛り上げて訴えるべきである。

16 好きな色

私は緑の着物を着よう。緑のしだれ柳を。
私の恋人は、緑がとっても好きだ。
私は糸杉の森や、緑色のまんねん香の荒野を探ねよう。
私の恋人は、緑がとっても好きだ。

愉快的狩に、御無事で行っていらっしやい。
荒野や、藪を元気で御通り下さい。
私の恋人はとっても狩が好きだ。
私の狩をする獲物は死だ。私の云う荒野は愛の苦痛だ。

私の為に芝生の中に墓を掘ってくれ。
そして、私を緑の芝生で被ってくれ。
私の恋人は、緑がとっても好きだ。
どの十字架も黒くはなく、どの草花も色とりどりでなく
そんな風に当り一面唯、緑である。

若者は、あく迄も、緑色が好きである。そして、緑の芝生で被われた墓に身を埋めたいと、感傷的に歌う。伴奏部分で・Fis 音が、絶え間なく刻まれ、これが左手の種々の和音と組合わせて単純な音型の中にも、深く沈潜した心理的描写に効果をあげている。先ず、この曲の歌唱に当って注意すべき事は、各母音の legato 唱法である。Rhythm は $\frac{3}{4}$ 拍子であるが、tempo は Etwas langsam で、かなり遅く、その意味に於ても、各々の

音符が tenuto されなければならない。先ず、最初の Phrase では、kleiden 及び weiden のそれぞれの重心を押さえ、< > の表情を、たっぷり表す。次の、mein Schatz hat's Grün so gern, (私の恋人は、とっても緑色が好きだ) の Phrase は、h moll から Hdur に転調され、この部分は mf で弾んで、生き生きと歌われなければならぬ。そして、二度目の同歌詞による旋律は、echo 効果による pp で歌う。続く Phrase では、特に Heide を fp の表現で歌い、又 Rosmarein は、espressivo に、しかも dim をうまく。第二節の motive は、Wohlauf zum fröhlichen Jagen (愉快的狩に御無事でいっていらっしやい) と、mf で、Lebhaft (生き生きと) に歌い、特に fröhlichen の fr の二重子音を強調し、響かせること。三節とも mein Schatz の Sch (ʃ) の発音に注意。又 Tod (to:t) の発音で、特に T の子音を無意味に強調する。そして独逸語の T の発音は [tʃ] を含み加減に割に舌を平たく使用して発音されるので注意したい。第三節は pp で、しかも (私の為に芝生の中に墓を掘ってくれ) と、Sentimental 歌い始め、Kein Kreuzlein, kein blümlein の打消語 kein の強調に注意。

17 にくらしき色

私は世の中へ、広い世界へと出て行きたいものだ。
もし、外界の森や野原が、唯緑色でさえなければ。
私は、あらゆる枝から緑色の木の葉を皆、むしりとってしまいたい。私は、すべての緑色の草を、死人のように
蒼ざめる程泣かせたい。

おお緑よ、お前、にくらしき色よ、何故、お前はいつも
そんなに威張って、厚かましく意地悪そうに
あの哀れな、純潔な男である私を眺めているのか。
私は、彼女の戸口で嵐や雨や雪の中に横たはり
昼も夜も、こっそりと、唯一つの「さようなら」と、
という言葉を書きたいものだ。

聞いてくれ。森で狩人の角笛が響く時には、
彼女の小窓も開くのだ。たとえ彼女が私の方を
眺めないとしても、私は見る事が出来る。
おお、お前の額から、あの緑のリボンをはずしてくれ、
さようなら、別れの為に、お前の手をさしのべてくれ。

前曲では、緑色は好きな色として歌われたが、ここで

は、にくらしき色として歌われる。恋人が緑色を好きであればある程、若者は逆の思考をとる。即ち、好きである筈の緑色に対する妬みである。曲の形式は、変化有節形式で最初の波状形の旋律による motive は、広い世界へ出たいという若者の願望を f で、堂々と意志表示したい。続く wenn's nur so grün, は唯、緑色から逃れたい、と切実に P で訴え in Wald und Feld で cresc し、次の Ich möchte の Phrase を f で歌う。この Phrase で、pflücken (pflykən) の pf の二重子音の発音に注意。即ち P の破裂音と f の摩擦音を分離して上手に発音すること。続く Ach, Grün, du böse Farbe du, (EX I) の Phrase は、伴奏が16分音符の三連音、h 音に依って Rhythm が刻まれているが、その三連音符に支えられた旋律の付点音符



は鋭く marcato 唱法により accent をつけ、緑色に対する憎しみを歌い、so stolz, so keck の accent 及びその処理 (>) をうまく。又、so schadenfroh のそれぞれの8分音符に accent をつけ、意地悪そうな表現をとる。

(EX I)

次の mich armen armen weinen Mann? は、同じく三連音符の伴奏に支えられているが、哀れな青白い男について歌っているので、付点の Rhythm を鋭くなく tenuto し、P で legato 唱法をするように。続いて Ich möchte ligen vor ihrer Tür, 三回目の Motive が現われるが、この Phrase は P で歌い、im Sturm und Regen und Schnee 猛々しく mf で。更に und singen ganz leise bei Tag und Nacht

は、(昼も夜も全く、こっそりと歌う。)と云う意味のように、やわらかに、しかも P で表現する。次に狩人のホルン (Jagdhorn) が伴奏形に現われるが (EX II) 非常に細かい Rhythm で歌われる為に、一つ一つの言葉を明確に発音し、小節の accent に当る wenn と Jagd に軽い accent をつける事により Phythm の流れを軽くすることが出来る。そして klingt ihr Fensterlein は、espressivo に legato で。

(EX II)

次の Phrase も同じく、schaut · mir · ich に accent をつける事によって、Rhythmic な歌唱をする事が出きよう。O binde von der Stirn ~ からは、三連音符の伴奏形ではあるが、Rhythmic な伴奏なので、旋律が浮かび上り易いが、三連音符に引っ張られる事なく leggiero な歌唱をすべきである。ade, ade, からは、伴奏形は分散和音形の旋律線で画かれるが、それだけにこの部分は legato で、しかも espressivo に恋人への別れを歌いたい。

18 萎める花

彼女が、私にくれたお前達すべての草花よ
人が、お前達を私と一緒に墓に入れてくれるだろう。
お前達は皆、何故私をそんなに悲しげに見るのか。
あたかも、お前達は私の様子を知っているかの様に、
お前達すべての草花よ、何故萎み青ざめているのか。
お前達すべての草花よ、何故そんなに濡れているのか。

ああ涙は小枝を緑にする事なく
死せる愛を再び花咲かす事もない。

しかも春は来て、冬は去り、芝生に
小花は咲くだろう。

しかも彼女が私にくれたすべての草花は
私の墓の中に横たわっているのだ。

そして、もし彼女が岡のほとりをさまよい、心の中で

「この男は真実の心を持っていた」と考えるならば
その時には草花がすべて咲き出るだろう。


そして五月が来て、冬は去ってしまうのだ。

すでに若者の恋慕は自嘲的となり、萎める花に自分を見出す。それ

EX I

EX II

でも尚心の片隅で彼女に「この男は真実の心を持っていた」と思わせようとする。前半の *emoll* の部分は、若者の嘆きを歌い、後半の *Edur* に転調された部分は、草花の咲き出る五月について歌っている。

最初の motive は、*mezza voce* で若者の悲しみの心情を歌い、*euch soll man legen~Grab*, の Phrase で、*legen* の伴奏部分に> (accent) がつけられているが、歌の方も弱拍であるが、重い accent をつけるべきである。尚、伴奏の部分は、8分音符の和音で奏されるが、後半の *rhythmic* な *Dur* の伴奏に対して重く、暗く表現されなければならない。続く *Wie seht ihr alle mich an so weh*, の Phrase で、最初の *Wie* の *w* の要素を多く、しかも溜息のように強調し、何故私を悲しそうに見るのか、と、疑問の感じを表わし、*so weh* の *s* と *w* の子音を深く発音し、しかも *espressivo* な表現をする。*als ob ihr wüßtet*, でも、最初の Motive と同じく *wüßtet* の *e* 音 (*g moll* の $1\frac{1}{4}$ に対する変過音) に accent をつける。次の articulation を伴った Phrase (EX I) の個々の動き  に注意し、しかも tempo がのびないように *in tempo* で歌わなければならない。

(EX I)

後半の *Edur* の部分は、伴奏部分が *emoll* の部分に対して *Rhythmic* な形をとり、しかも旋律は階段的に上行進行をとっているのので、各々の Phrase の *cresc* が、うまくなされなければならない。即ち *Und, wenn sie wandelt am Hügel vorbei* の Phrase は *P* で始まり、*der meint' es treu* (この男は真実の心を持っていた) は、確心を持って *mf* で歌い、続く Phrase を、草花は咲き出で、五月は来り、冬は去る、と爆発的な *cresc* をもって歌い上げる。

19 水車屋の男と小川

(水車屋の男)

愛の真実の心は、何処に過ぎ去ったのか
すべての花園の百合は枯れ凋み、満月はその涙を
人に見られないようにと、雲の中に入って行くだろう。

天使達は、その眼を掩って、すすり泣き、
その魂を鎮める為に歌うのだ。

(小川)

そして、若し、愛が苦しみから逃れ出る時には
小さな新しい星は空に輝く。すると、半紅半白の

三輪のバラは、茨の小枝から咲き出て、
二度と凋む事はないのだ。又、天使達はその翼を取り去って、毎朝地上へ降り立つのだ。

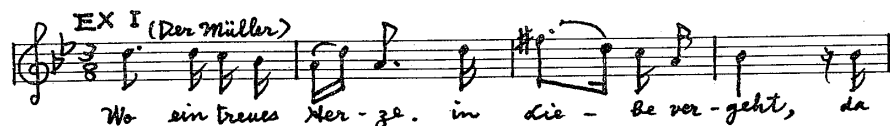
(水車屋の男)

ああ、愛する小川よ。お前はこれ程好意的なのか。
ああ、小川よ。お前は、愛がどんなものか知っているのか。
ああ、この水底には涼しい憩いがある。
ああ、愛する小川よ、そのように唯、歌い続けておくれ。

若者は、愛について小川と対話を行なう。その対話の区別として、若者の歌は、最後の一部を除いては、全体に *g moll* で表現され、それに対して小川は、*Gdur* で歌われ、対称的に取扱われている。伴奏形も、最初の *g moll* の部分は、若者の人間的な心象表現を行なっている為、独特の *Rhythm* を持った *Syncopational* な和音形の伴奏で書かれているが、小川の部分は、そのせせらぎを分散和音により明るく表現している。又、この曲は、三部形式と思ってよいが、*A'* の部分の若者の歌では調性は、*g moll* で始まり、旋律も *A* のそれと同じであるが、伴奏形は *B* の分散和音形が、そのまま続けられている。ただし、左手の部分には、*A* の部分の *Syncopation* による形が表わされている。従って *A'* の部分は、音楽的に *AB* の *mix* されたものと見る事が出来る。即ち、ここでは、若者と小川の対話が同時になされている、と解釈出来る。先ず、最初の、水車屋の若者の嘆き (EX I) は、完全な *legato* で、しかも *lyric* な表現をすべきである。

(EX I)

da muß in die Wolken では、少し *cresc* し、*der Vollmond gehn* で *dim* する。*Der Müller* の部分の、最後の Phrase に於ける *Seele* の *Vocalization* を上手に。小川の部分 (*Gdur*) は、全体的に明るく、そして、さわやかな感じで、愛について歌われるべきである。但し、tempo は *in tempo* で、決して速くならない。Und wenn sich die Liebe dem



Schmerz entringt, の Phrase (EXII) は, legato で内面的な歌唱を要求され, ein Sterlein, ein neues では, 多少弾んで歌い, am Himmel erblinkt の取りをはっきり。

(EXII)

da springen drei Rosen は, やはり, 生き生きと弾み, halb weiß に於ける weiß の cis 音に重心を置き, dim をうまく。aus Dornenreisでは, rit しがちだが, むしろ tenuto と考えた方が良く, tempo そのものは変えず, あっさり歌いたい。Gdur の最後の und gehn alle Morgen zur Erde herab では, やはり多少弾み, 生き生きと歌い, zur Erde herab の部分は, 少し rit し, しかも Erde (e:rðə) の vocalization を上手に。次の水車屋の若者の部分は, 人間的な感じで, 小川に対して歌い続ける事を願い, du meint es so gut の so gut に於ける s 及び g の子音を大事に。wie Liebe tut? の tut は, 前の so gut に韻を合わせてあるので, やはり tut の最初の子音 t を強調し, tut の d 音を cresc し, 次の Ach unten を mf で歌うべく受けつがれるべきである。die kühle Ruh./ の kühle の k の子音を鋭く発音し, 冷やかな感情表出に役立てたい。最後の so singe nur zu. は, rit し, そして動きを, はっきり。勿論, 後奏は Smorzando に。

20 小川の子守歌

眠れ 眠れ 眼を閉じよ!

お前, 疲れた旅人よ。お前は, 今家にいるのだ

ここには真実があるから, 私のもとで休むがよい。

海が, 遂にはその小川を飲んでしまうまで。

柔らかな枕で涼しい寝床を, お前にしつらえてあげよう。

青い水晶の小部屋の中に。

来れ, およそ, 守をする事の出来る者は

私の為に, その子供を揺すって寝つかしてくれ。

狩人の角笛が緑の森から響く時

私は, お前の周りでざわめき, 鳴り騒いであげよう。

青い草花よ, のぞき込まないでおくれ。

お前達は, 私の眠れる子供の夢を 重くしてはいけない。

水車屋の小路から, にくらしき娘よ。立去れ。

お前の蔭が, その眠れる子供を覚まさないように。

お前の美しいハンカチを私の方へ投げてください。

私が彼の目を覆って保っているように。

眠れ/すべてのものが目覚めるまで。

お前の喜びも, 悲しみも眠って忘れなさい。

満月が登り, 霧は晴れ, 大空は高く, 何と遠い事か。

若者は遂に失恋の為, 愛する小川に身を沈める。疲れた旅人(若者)を慰めるべく, この子守歌が歌われる。

伴奏部分(EXI)の揺れる Rhythm の感じは, 子守歌の揺れる音型を巧みに表現しており, この Rhythm

を感じながら, 歌われるべきである。又, この伴奏部分でH音の2分音符に, accent が, つけられているが, これは若者をとむらう教会の鐘の音とを感じる事も出来よう。

(EXI)

完全な有節形式で, 第五節までであるが, 意味の上からも変化をもたせて歌われるべきで, 第一節 Gute, Ruh, gute Ruh./ は, 子守歌らしくPで, amabile に歌い, 次の Wandrer du muder, のmuder を, 疲れた感じを表す為に, mの要素を多く, しかも物憂く表現する。Die Treu ist hier, ~ bei mir, は一回目は mf で歌い, くり返しの二回目は, mp で対称的に表現すれば面白だろう。又, 次の伴奏の Motive は, 独逸的な Rhythm

EX II (Der Bach)

EX II



で表わされているが、この Rhythm (EXII) を、若者を送る葬送行進曲としての Rhythm には思えないだろうか。

(EXII)

この部分の bis das Meer ~ die Bächlein aus, も一回目と二回目を対称的に扱えば面白かろう。第二節も P で歌い始め、kühl (涼しい) の k の子音を涼しい感じで鋭く強調し、auf weichen Pfuhl の weichen (柔らかな) の w の子音を柔らかな摩擦音で。Heraan (おいで) は、f で歌い、これに対して、二回目の対称的表現は、一節に同じ。woget und wieget の揺れる感じを w の摩擦音で上手に。第三節は、あくまでも恋仇である狩人を憎み、f で、しかも marcato に歌い始め狩人の角笛を聞かないですむように騒いであげよう、と配慮し。Blickt nicht herein, blaue Blümelein の Phrase は、legato で、やわらかに。又、Blickt ck と t の二重子音の発音をうまく。ihr macht meinem Schlafer die Träume so schwer, の so schwer (非常に重い) を重く。その為に so の s と sch の子音の要素を多く。第四節は恋人に対する憎しみから Hinweg (立去れ) と、歌う部分は、憎しみに満ちて marcato に。dass ihn dein Schatten ~ nicht weckt は、割に Rhythmic に Wirf mir herein dein Tuchlein fein, は、ハンカチを投げてもらうべく、促す

ようにやさしく mp で。第五節は、子守唄らしく、安らかに「おやすみ」と、p で歌い始め、aus deine Freude の Freude (喜び) と、aus dein Leid の Leid (悲しみ) を対称的に歌い、Der Vollmond steigt の Phrase は、月のゆう ~ と上る感じで、幅広く歌い、und der Himmel da oben は mf で天について歌い wie ist er so weit. の so weit の s と w の子音を、上手に深い溜息で歌い、宇宙の広さについて感動的に表現し、悲しみ、憎しみを越えた無限の宇宙に溶けこみ、抱擁されたく願いながら、この連歌曲集を歌い終る。

後 記

昭和34年4月より内地留学の機会を得、東京芸術大学に於て、中山悌一氏に師事し、この「Die schöne Müllerin」についての貴重な指導を仰いだ際のレッスンに基づいてこの論文をまとめたものである。尚、この論文に用いた楽譜は Original (原曲) である。

参 考 文 献

- | | |
|---------------------|----------------|
| 名曲解説事典(7)声楽曲 | 音楽之友社 |
| 西洋音楽史要 門馬直衛著 | 春秋社 |
| シューベルト歌曲集解説 辻莊一著 | 音楽之友社 |
| 歌手と伴奏者 (ジェラルド・ムーア著) | 大島正泰訳
音楽之友社 |

(中山助教授は去る昭和46年8月25日に亡くなられ、本稿は遺稿となった。ここにつつしんで同助教授の御冥福を祈る次第である — 編集委員一同)